地域の居場所づくり交流会Ⅸ
「子どもの居場所づくりを考える　～学校内外の実践事例を通して～」

事例発表 1　白井容子さん（不登校・子どもの居場所ネットワークちがさき　代表）

不登校・子どもの居場所ネットワークちがさきの白井と申します。 このネットワークは 2024 年に立ち上げましたが、まずは、その経緯につてお話しします。

私には 2 人の息子がおります。
2 人とも小学校中学校を通して、登校が難しい状況があっのですが、幸い身近なところに悩みを聞いてくれる人がいたり、暖かく見守ったり、手を差し伸べてくださる方がいらっしゃったことで、安心して子どもたちに寄り添ったり、自分自身と向き合ったりすることができました。

ただ、子どもの年齢が上がっていくにつれて、フェーズが変わってきます。 親としての悩み事も様々に変化していく中で、同じような経験をされた保護者の方の声を聞きたい、相談できる場所があるといいな、ということを考えるようになりました。

そんな時に知り合いから、**ワーコレたんぽぽひろば**で「たんぽぽカフェ」をやってるよ、という案内があって訪ねてみました。 そして、こんな風に暖かくて人が緩く繋がれる場所が私の家の近くにもあったらいいなと思い、不登校を考える会**「えんがわ」**を始めました。保護者や地域で子どもに関わっている方が交流できるような場所になるよう願って活動しています。

また、**「たんぽぽ」**や**「えんがわ」**それぞれの場所では、どうしても人員とかスペースなど活動に制限があるなと感じることもあり、
『一緒に何かできることはないのかな？　できることをやってみようよ』
ということで、親子のフリースペースを開くようになりました。 こうして、新しい人の出会いが生まれていく素晴らしさを感じ、ネットワークの立ち上げにつながっていきました。

不登校の子どもたちにとっても、このつながりというのはすごく大事なことだなと感じております。
身近な大人にありのままを受け入れてもらえる、守られている、助けてもらえるという実感を持てることで、その安心を支えに前に進んでいける、自立に向かっていけるのではないかと思っております。そして、そういった自立に向かう過程の中で、学校の先生というのも、やはりとても大きな存在ではないかと思っています。『登校している・していない』にかかわらず、先生との間にいい関係が築けることは、子どもの大きな力になっていくのではないかと感じています。

また、学校・家庭だけでなく、地域で子どもの居場所『サードプレイス』を開いている方々の力もすごく大きくて、学校へ行ってないっていうことを、ちゃんと受け入れてもらる、大丈夫だよと言ってもらえること、身近なところに子ども達を支える人がいるということが、とても大切かなと思います。

ネットワークとしても、人のつながりを大事にして、いろんな立場の人がつながって子どもたちを支えていけるようになりたいと願っています。 現状はどうかと言いますと、学校、家庭、地域で支援に携わる方との連携は、なかなか難しい状況があるのではないかと思います。
例えば、学校の先生が今多忙を極める中で、個別に対応が必要な児童生徒や保護者とのコミュニケーションがなかなか取りにくくなっているというお話も聞いています。 また、子どもに必要な情報がなかなか手に入らずに、孤立感を覚える、ママ友とのつながりもなくなっていく、外にも出かけにくくなる状況が少しでも改善されて、子どもに関わる人たちが支えられる関係を作っていけたらと思っております。

それでは、私たちが 2024 年に取り組んだ活動について、ご報告させていただきます。

2024 年の 1 月に、手元にある情報を必要な保護者に届けたいということで、リーフレットを作りました。**「たんぽぽハウス」「不登校を考える会えんがわ」「つむぐ」**の 3 か所の居場所情報を掲載し、福祉、子どもの関連の窓口、公民館、コミュニティセンターなどに配布しました。

そして、3 月には青少年教育相談室の指導主事と面談を行い、相談所の相談員さんたちにこのリーフレットを配布していただきました。

3 月、8 月に、スクールソーシャルワーカーさんたちとの座談会を開きました。
ざっくばらんにお話する中で、学校が抱る課題ですとか、支援のあり方などについてお話しをしました。 9 月には第 1 回「不登校でつながる交流会」を、茅ヶ崎市社会福祉協議会と共催で開催しました。 居場所に関わっている方や保護者の方にご参加いただいて、不登校の子どもが生き生きするために必要なことをグループで話し合う中で、安心安全というキーワードが数多く上がってきました。

2025 年の 3 月には 2 回目の「不登校でつながる交流会」を、社会福祉協議会との共催で開催しました。 この時のテーマは、「子どもの居場所の一覧を作ろう」「安心安全な居場所って何だろう」の 2 つでした。

このテーマで交流会を開いたきっかけというは、スクールソーシャルワーカーさんの方から社会福祉協議会に子どもの居場所についての問い合わせがあり、さらに社会福祉協議会から私どものネットワークに相談が回ってきたということがありました。
居場所情報の集約が急がれていると感じ、支援者に活用してもらえるような一覧を作ろうというテーマを選びました。 また、居場所が安心安全であるために必要なことは何だろうということも、みんなで考えてみようということになりました。

3 月には市教育センターとの意見交換会を行い、茅ヶ崎市の不登校の現状なども伺っています。 学校内の別室登校に対応する人員の配置であったり、あすなろ教室のニーズが変化している、というようなお話がありました。 お話を伺いながら、学校の先生方の人員が本当に限られている中で、精一杯頑張ってくださっていることを感じました。

私たちネットワークの方からは、学校の先生の「よかった対応」「こんなことに困ったことがあった」という内容をお伝しました。 保護者同様、先生方も悩み手探りしながら対応していることも多いと思いますが、年月を経て「あの時の言葉があったから、子どもが元気でいられた」「あの時にこんな風に対応してくれたから、その後のステップに繋がった」というようなことをお伝することで、先生方も励みになるとおっしゃっていただけました。

今後の活動ですが、実現したい姿として、学校と地域の連絡・連携が取れているということ。
大人が繋がって、連携が取れていることで、真ん中にいる子どもたちが、生き生きとしてくる。大人たちの温かい気持や眼差しの中で、子どもたちが自信をつけて自立に向かっていけるよう願って、地道に活動していきたいと思います。